

SVO言語の語順類型

タイプ	言語数
9.SVO: Pr : NG : NA	56
10.SVO: Pr : NG : AN	17
11.SVO: Pr : GN : NA	7
12.SVO: Pr : GN : AN	4
13.SVO: Po : NG : NA	0
14.SVO: Po: NG : AN	0
15.SVO: Po: GN : NA	12
16.SVO: Po : GN : AN	13

Pr:前置詞、Po:後置詞

G:属格句、N:名詞、A:形容詞

- SVO言語のなかでNG語順は約3分の2、GN語順は約3分の1である。
- 後置詞言語と前置詞言語との相関を見ると後置詞言語は100%GN語順である。名詞句をDPとして分析したとの前提で、主要部前置とあわない。
- 一般に属格名詞句は既知のものから未知のものを導入する役割を担う機能を持っているとされる。
- これは熟慮型の認知スタイルと相関している可能性がある。

SVO言語の語順類型

タイプ	言語数
9.SVO: Pr : NG : NA	56
10.SVO: Pr : NG : AN	17
11.SVO: Pr : GN : NA	7
12.SVO: Pr : GN : AN	4
13.SVO: Po : NG : NA	0
14.SVO: Po: NG : AN	0
15.SVO: Po: GN : NA	12
16.SVO: Po : GN : AN	13

Pr:前置詞、Po:後置詞

G:属格句、N:名詞、A:形容詞

- 前置詞言語ではGN語順は約8分の1、NG語順が約8分の7であり、GN語順は少数派である。
- NG語順はあせり気味がやや強い認知スタイルと相関していると考えられる。
- そのなかでも少数派のGN語順を持つ言語はやや熟慮度が高いと見られる。
- 絶対的な相関が側置詞語順と属格語順に見られないということは相関は相対的に程度によっているということを示している。

SVO言語の語順類型

タイプ	言語数
9.SVO: Pr : NG : NA	56
10.SVO: Pr : NG : AN	17
11.SVO: Pr : GN : NA	7
12.SVO: Pr : GN : AN	4
13.SVO: Po : NG : NA	0
14.SVO: Po: NG : AN	0
15.SVO: Po: GN : NA	12
16.SVO: Po : GN : AN	13

Pr:前置詞、Po:後置詞

G:属格句、N:名詞、A:形容詞

- 形容詞語順に関してはAN語順(34)が約3分の1、NA語順(75)が約3分の2で、NA語順が優勢である。
- 側置詞語順との相関では後置詞言語ではNA語順(12)とAN語順(13)は拮抗している。
- 前置詞言語ではNA語順(63)が約3分の2、AN語順(21)が約3分の1と、NA語順が優勢である。
- 属格語順と形容詞語順の相関では、NG語順ではNA語順(56)がAN語順(17)よりかなり優勢であり、GN語順ではNA語順(19)とAN語順(17)とがほぼ拮抗している。